



人権平和資料館だより

2021年（令和3年）1月

HUMAN RIGHTS & PEACE 第268号

人権と平和は
21世紀のキーワード

〒720-0061 福山市丸之内1-1-1
TEL 084-924-6789 FAX 084-924-6850

jinken-heiwa-shiryokan@city.fukuyama.hiroshima.jp

「知覧展」 ～ 福山からの特攻～

期間 1月17日(日)～3月28日(日)



知覧特攻平和会館に展示してある陸軍四式戦闘機「疾風」(キ-84 甲)

知覧は、1941年（昭和16年）、^{たちあらい}大刀洗陸軍飛行学校知覧分教所が開校、少年飛行兵、学徒出陣の特別操縦見習士官らが操縦訓練を重ねていましたが、戦況が緊迫し^{けんあく}険悪となり、ついに1945年（昭和20年）本土最南端の陸軍特攻基地となり、20歳前後の若い隊員たちが満州・日本内地から結集しては、家族・国の将来を思いながら出撃した地です。沖縄戦で特攻戦死された1,036名の隊員は、知覧基地を主軸として^{ばんせい}万世・^{みやこのじょう}都城基地から第8飛行師団は台湾各地、^{ぎれつ}義烈空挺隊は^{けんぐん}健軍（熊本）基地から出撃しています。今回の企画展では、知覧特攻平和記念館に所蔵されている福山地区出身の特攻隊員の遺影や遺書を中心に展示し、特攻を通して戦争のむなしさ、命の尊さについて考えます。



いっしきせんとうき はやぶさ
【一式戦闘機「隼」】

太平洋戦争時の日本陸軍の戦闘機。「疾風」と共に陸軍を代表する戦闘機で、総生産数は5,700機以上で、零式艦上戦闘機に次いで2番目に多い。戦争末期には特別攻撃隊が運用する特攻機としても多用された。この機体は、2019年（令和元年）に公開された映画「俺は、君のためにこそ死ににいく」で忠実に復元されたものです。

さんかくへいしやあと
【三角兵舎跡】

空襲を避けるため飛行場から少し離れた松林の中に三角兵舎が造られました。三角兵舎は半地下式木造のバラック建てで、屋根には偽装用の幼木ようぼくをのせていました。ここで特攻隊員たちは出撃までの数日間を過ごしたのです。この兵舎は、復元された兵舎で、当時を偲ぶことができます。



ゆしこ
【油脂庫】

練習機用の潤滑油やグリスなどを保管した倉庫です。壁面には荒々しい円錐状えんすいじょう くぼの窪みが何か所も刻まれています。これは、1945年（昭和20年）3月以降、米軍の艦載機による空襲を受けた時の機銃きじゅうによる傷跡です。



とみやしょくどう
【富屋食堂】

この食堂は、1942年（昭和17年）知覧に飛行学校ができたことによって軍指定食堂になりました。そのおかみさんだったのが、特攻の母と呼ばれた鳥濱トメとりはまです。沢山の出撃直前の特攻隊員と触れ合い、彼らの心の支えになろうとしました。出撃前の特攻隊員たちのお母さんになろうと隊員たちが最期に食べたいものを用意するため私財をなげ売ってまで必死にお世話をしました。



映画会：鶴田浩二主演作「雲ながるる果てに」

日時：3月7日（日）

① 10:00～

② 13:30～

入場無料

場所：福山市人権平和資料館

※新型コロナウイルス感染症の拡大状況によっては、中止になる場合があります。

内容：本土南端の特攻基地を舞台に、戦争のもたらした若き特攻隊員たちの苦悩、悲劇を感動的に描き、類型的な反戦映画を越えた名作である。